



対象	評価項目 ※丸数字は重点目標との関連	評価の観点	成果と課題	評価			改善策	
				A	B	C		
学習指導	② 授業の充実・改善	「学び直し」などで基礎学力を定着させ、キャリア教育を意識した授業改革を、学校をあげて推進できたか。	「マナトレ」を使用して学び直しを進め、年に2回「基礎力診断テスト」を実施した。実施後は、ベネッセより担当者を招き検討会を実施した。基礎力診断テストの結果から学び直しの効果も確認でき、担当者の方からお褒めの言葉もいただいた。	○			読解力の向上については「基礎力診断テスト」の結果を細かく分析し、具体的な改善策を考え、授業に役立てたい。キャリア教育は現在特定の教科に集中しがちであるので、さらに多くの教科でキャリア教育の推進を進めていけるように努力したい。今後は教務とも連携してキャリア教育の広報活動にも力を入れたい。	
		「授業の五か条」を定着させることができたか。	例年通り「授業の五か条」と「携帯電話の五か条」をフタして各教室に掲示した。さらに始業式(2,3年)後と、オリエンテーション(1年)にて、プレゼンテーションを行いその重要性を再確認させた。また、スマホケースに関しては、昨年度末に実施した生徒アンケート結果に基づいて、今年度は透明なカバーを掛け衛生面にも心がけた。	○			年度当初に2つの五か条の確認ができたことは大変有効だったので今後も継続したい。年々スマホ依存が進み、4月当初は良くても、学期を経ると指導が難しい状況になっていく傾向がある。県で行う授業評価とは別に生徒自身のセルフチェックを記名させて行うなど、生徒自らが意識を高められるような方法を考えたい。	
		授業研修の機会をもてたか。	NIE研究に係る公開授業および職員相互の授業公開を実施した。特に授業見学MATSUKOと銘打つての職員相互の授業公開を多く実施し研修を深めた。	○			公開授業だけでなく授業公開週間などをさらに利用することにより、各教科内や教科の枠を超えて、授業を参観し合い、授業改善につながるよう研修を深めたい。	
教育課程	③ 教育課程及び個に応じたエリア・選択科目の設定	エリア・講座選択のガイダンス指導は適切にできたか。	1学年のエリア選択説明会においてよりわかりやすくするために、プレゼンテーション形式で説明を行った。2学年の3年次選択科目については、希望者の偏りが著しいものもあり、調整が大変だった。	○			担当者が誰でも説明できるプレゼンテーションを作っておくことは、エリア選択の指導の継続にも有効である。エリアの選択は、進路を左右する重要な決断である。早めに進路の方向を決定し、保護者の同意も確認した上で、慎重に指導していく必要がある。	
		エリア制の目標に即してカリキュラムの充実を図ることができたか。	H28、29、30年度の教育課程を見直し、より一層のカリキュラムの充実を図ることができた。募集定員の変動に伴い、教育課程が毎年変更せざるを得ない状況になっていることが残念である。しかしこのような状況の中でエリアや選択科目の内容、数については、生徒の進路の傾向や進路希望調査などを踏まえ、数年前を見据えた上で、改善を検討することができた。	○			H30年度については、H32年度入学生から始まる新教育課程の内容が決定したところで、多少見直ししていく必要がある。	
進路指導	③ キャリア教育の中での個性・能力の伸長	キャリア教育全体を通じて、個人にあった進路指導が実施できたか。	進路チャートによる指導が定着している。多くの生徒は進路選択の意思決定とその実現の準備がみられ、成果が出ている。一方で少数ではあるが指導の流れに乗り遅れる生徒や、家庭の事情から急な変更をせざるを得ない生徒が見られる。	○			生徒の進路選択が学年進行とともに適切に行われているか状況を確認し、必要な情報を提供するなど担任が動きやすいように支援する。また、進路決定が難しい生徒については他機関と協力、連携しながら、生徒1人1人の希望に合わせた進路実現に向けた努力を引き続きおこなっていく。	
		学年や個に応じた進路情報が提供できたか。	進路係会を定例で行って進路情報や学年を超えたノウハウの共有や生徒や担任が必要な情報をタイムリーに出すことができた。進路通信については、昨年よりも発行部数が少なかった。	○			進路チャートにそって必要な情報を提供がよりよくできるように、情報の取捨選択と提供する形にさらに工夫をする。また懇談会後の進路室相談窓口の開設など保護者への情報提供も引き続きおこなっていく。情報発信については方法も含め、引き続き検討していく。	
		基礎学力の育成から進路試験対策学習に結びつけるよう、計画的に実施できたか。	基礎学力の育成から進路試験対策学習に結びつけるよう計画的に指導の成果もあり、難関の公立大学に公募推薦で合格することができた。引き続き生徒への粘り強い指導をしていきたい。	○			進路チャートに基づいて計画的に指導していくとともに、係・学年だけでなく教科の協力も求め、縦横様々な方向から指導する体勢をつくる。特にマナトレや学び直しの取り組みは、職員間で理解を深め協力いただけるよう努力する。	
生徒指導	① 安全な学校生活の保障	いじめや問題行動に対して的確に対応できたか。	生徒からの相談や問題行動があった場合にはすぐに学年会で動く体制ができおり、情報収集・共有・指導ができる。今後は今以上に職員全体で早く共有できるようにしていかなければならない。	○			職員がアンテナを高くして情報収集を行い、指導に時間差ができないよう、情報共有をできるだけ早く行える職員会議や職員朝会を活用していく。	
		① 基本的生活習慣の確立	挨拶の励行、マナー、上下履きの区別の定着ができたか。	挨拶は多くの生徒ができ、来客時にも気持ちの良い挨拶をすることができている。一方で、通学マナーや上下履きの区別できない生徒もいるため、授業・行事に絡めながら指導していく必要がある。	○			通学マナーなど校外での行動を駅前立ち番や校外巡視などで現状を把握する必要がある。毎年実施しているが、生徒への注意喚起も含め更に継続していく。
			高校生としてふさわしい身だしなみが定着できたか。	標準服が定着しており、多くの生徒が日常から着用している。スカート丈や短いブレザーを着ている生徒もいるため、身だしなみ検査等で改善できるよう今後も指導していく。	○			身だしなみについては、全体として落ち着いてきている。学校行事や身だしなみ検査の機会を活用し、継続的に指導していく。
生徒会	④ 生徒会活動やクラブ活動の活性化	全校生徒が課題を共有し、一つ一つの行事や活動を主体的に企画・運営できたか。	主体的企画を実施し学年の枠を超えた課題を共有し議論する機会とした。プランター、花壇づくりを全校の協力で実施した。プランター管理はクラスごとの分担をして取り組ませた。文化祭では、必ず係に所属して活動に関わらせた。またクラスでの企画や全校制作を行うことで主体的参加を促した。さらに全ての生徒が主体的に捉えて活動に参加する雰囲気作りができた。	○			役員や一部生徒だけの活動にならない意識付けをする。全生徒会員へ行事、活動のねらいや目標を理解させるための活動を工夫する必要がある。	
		継続的な委員会活動が展開できたか。	定期的な役員会運営で、役員は計画を見通しつつ活動することができた。美化委員会、保健委員会、図書委員会、放送委員会など日常的に活動が行われた。全委員に意識と自覚を持たせることが不十分であった。	○			各委員の任務分担と責任を明確にして取り組ませる工夫をする。当事者意識を持つことで、活動への関心や責任感が自然に高まるはずであるので、目標と計画をより明示的に伝達し、全委員の意識付けをする。	
		意欲的にクラブ活動に参加する姿勢を養い、また、クラブ加入率を上げるなど活性化のための方策がとれたか。	各クラブ顧問の熱意ある指導により、多くの部活動が活発に展開されている。対外競技や大会、コンクールなどで練習や活動の積み重ねの成果を発揮できるよう指導できた。	○			活動の成果を讃えたり披露する場を設け、達成感や充実感を感じさせる。同時に自らの成長の証や仲間との連帯感が生まれるような工夫をする。それにより課外の時間を有意義に過ごせるようクラブ活動をその重要な選択肢にするよう継続的な指導を行う。	
	④ ⑤ 生徒会活動、クラブ活動による自発的意欲と実践力および自治能力の育成	社会参加を図り、地域に貢献する取り組みを行うことができたか。	花いっぱい活動では、町役場、上片桐保育園との交流と共同活動に携わらせ社会参加の意識を持たせることができた。ボランティア部の活動では地域との関わりと交流を活発に行い、地域に大いに貢献した。文化祭では、地域の活動団体を招く企画を行い地域への理解を深めることができた。	○			地域の人たちが松川高校にどのような意識を持っておられるかを捉え、それをふまえた活動を考えさせる方向付けをする。また、松川高校の姿を地域の人たちにさらに知ってもらう機会を工夫し、地域の方々と関わる行事や取り組みを積極的に計画する。	
		生徒会活動全体を通じて、自発的、自発的精神を養うことができたか。	自ら計画し実施させ成果を感じ取ることで、自発的、自発的精神を養う指導を試みた。また、活動方針に自分たちの課題や目標とするべきものを取り込ませ掲げることで意識付けを行った。役員は生徒たちに自覚を持たせることはできつつある。全生徒へ浸透させることの難しさがある。	○			自らの活動が何らかの目に見える成果として現れる工夫をすることによってより高い自覚を持てるよう全校参加の活動を計画する。役立ち感や成長感を得られる活動を工夫する。役員等一部の生徒にとどまらず全校生徒へ問題意識を提起する機会をつくる。	
教育相談	① 教育相談の充実(不適応生徒への対応)	対応を必要とする生徒の状況の把握を行う体制が構築できたか。	職員間の生徒の状況把握については係会、職員会で共有することができた。さらに学期ごと生徒のよい点についても出し合い共有することができた。保護者への連絡を密にし、密にしていきたい。	○			教育相談活動に関し、職員間で共通した理解を持てるように情報の提供をする。さらに保護者との連絡を密にし生徒の状況を把握できるようにしていく。保護者、生徒にも相談活動に対して理解と協力を得られるようにする。	
		関係者との連絡を密に取り、適切、迅速な対応ができたか。	教育支援の専門家からのアドバイスを多く受けることができた。さらに生徒、担任、保護者と悩みを共有して生徒にとってよい方向に進むようにさらなる理解、協力を得ることをしていきたい。	○			正確な情報の把握と共有をするともに、教育支援の専門家との連携を密にし、相談しやすい環境をつくる。	
保健	① 生徒・職員の心身の健康管理と増進、保健衛生の確立	健康診断による生徒・職員の健康状態の把握と、その結果を踏まえ随時適切な処置を行うことができたか。	疾病異常者だけでなく、全校生徒に定期健康診断結果を通知し、必要に応じて1、2学期末の保護者懇談時を活用して保護者も含めた保健指導をすることができた。	○			生徒、保護者への受診勧告をするともに、学校医検診の機会をとらえ、要管理生徒へのフォローアップを継続していく。	
		生徒自身が自己の発育、健康状態を理解し処理できるような取り組みができたか。	上記項目に加え、HRでの保健指導を松高祭運動会に際しての熱中症予防や今年度大流行したインフルエンザについて担任、係担当が行った。また、保健便り、掲示物、松高祭救護係による保健研究発表での啓蒙活動に取り組んだ。	○			健康診断後や、行事前、感染症流行時をとらえ、自己健康管理能力を高めることが出来るよう指導を継続していく。	
		応急手当の方法に関する意識の向上ができたか。	保健体育の授業において1学年生徒全員を対象に救急法講習を下伊那赤十字病院職員に講師を依頼し実施した。	○			1学年生徒だけでなく、運動部、保健委員や救急法についてより深く学びたい生徒等を対象にした救急法講習会を企画したい。	

図書視聴覚	②	図書館利用時のマナーの向上 幅広い資料の活用	携帯電話の使用禁止、飲食の禁止が浸透したか。	多くは、携帯電話や飲食に関するマナーを守り利用できている。携帯電話でのゲーム利用が時折見られた。	○	折に触れ、携帯電話の利用や返却期限の遵守について指導し、気持ちよく利用できる環境づくりに努めたい。
			知りたいと思ったことを知ることができる資料をそろえ、それらを利用する機会を設けられたか。	生徒の要望を取り入れつつ、幅広い分野の本を揃えるとともに、掲示や便りなど利用を促す広報に努めた。	○	利用増につながるような広報活動に取り組んでいきたい。
	① ②	視聴覚教育の充実 人権教育との連携	視聴覚機器の充実と有効活用、放送室等の整備ができたか。	さまざまな活動に利用してもらえた。放送室、第2体育館の放送室の適切な使用について生徒に徹底する必要がある。	○	放送室の使用について、生徒に適切な使用を厳守するよう徹底したい。校内の放送機器について再度所在を確認し、老朽化した放送機器については修繕や設置を検討する。
学校情報管理	①	情報機器の活用体制	校内LANの充実と情報機器の有効活用が学校全体でできたか。	「校内Web」の活用により、校内の情報の集約と円滑な伝達を図ることができた。担当職員がパソコンに詳しくないため、前任の先生に頼ってばかりになってしまった。	○	新校内LANのサーバーの空き容量が少ないので、過去のデータの消去やDVDでの保管などを徹底していく必要がある。
		個人情報の保護	個人情報保護制度の定着運用と情報化社会への対応課題の研究実践ができたか。	情報資産管理簿を作成し、職員に周知させることができた。自分たち自身で重要度を把握して、セキュリティをかけられるように、さらなる周知徹底を行う必要がある。	○	情報資産について全職員への周知徹底し、パスワードをかける方法など、研修を行っていく必要がある。
	①	危機管理	防災・事故等に備えた危機管理体制の広報と定着ができたか。	緊急時初期対応マニュアルが印刷され配布された。9月1日に放防災訓練を行い、生徒の危機管理意識の高揚に努めた。	○	避難訓練時の放送については緊急放送と校内放送を併用していく必要がある。また、放送機器が使えない場合の対応(拡声器使用)等について考えていく必要もある。
環境美化	④ ⑤	清掃美化の徹底	生徒自ら、自発的に環境美化活動に取り組む姿勢を養い、校内美化の徹底を図ることができたか。	清掃美化に対する規範意識は少しずつ意識できている生徒も多い。しかし、一部の生徒による校内外のポイ捨てにどのような働きかけや方策をとるか、生徒と友に考え検討していく。廊下の汚れ落とし・ワックスかけを一生懸命行ってくれる生徒がおり校内が清潔に保	○	「ポイ捨てをしない」「汚さない」等の規範意識をどのように高めていったらよいか、生徒会を中心にして全体に問いかける機会を設け、それを生徒自ら実践する活動に繋げられるような実践、又、快適で居心地のよい学校になるよう徹底を図る。
			地域における学校の果たす役割として、駅周辺と通学路の環境美化に努力できたか。また、ごみの減量化、ごみの分別等ができたか。	通学路の不法投棄も一部の生徒によるところが多いが、生徒会や美化係が協力して放課後通学路のごみ拾いを行い、規範意識を高める取り組みがなされてきている。	○	通学路の不法投棄は、生徒会、職員一丸となって改善策を考えていく必要がある。「ゴミの分別」に関しては、ゴミ箱周辺の掲示をわかりやすくするなど、改善策は暫時改善されつつあるので、一部の生徒の規範意識も含めて底上げを検討していく。
人権平和教育	① ④	個人を尊重し、いじめのない学校づくりを進める	いじめを容認しない、早期発見ができる人権感覚の育成を生徒の日常生活の実態に即してクラス・学年・学校全体を通じて重層的に行うことができたか。	年度の早い時期に「人権学習」と「憲法学習」を実施できた。普段の授業や学年段階の学習でも差別を容認しない、人権意識を高めるための取り組みがなされた。	○	全職員があらゆる機会を捉えて生徒の実態把握に努め、認識を共有したい。係・学年・教科・部活動顧問で連携し、気になることは日常的に話題にし、いじめの予防・早期発見に努める。いじめは決して許されないという姿勢を常に生徒に示し、特に新入生対象の人権学習を早期に実施したい。
			人権平和教育を教科と教科外の各領域において関連をもたせ、実施することができたか。	2年生の沖縄研修旅行に行く事前学習として、地歴公民科で学習を深めたり、英語で資料を読ませたりした。平和の尊さを意識させる上で重要な取り組みができた。	○	生徒にとって一過性の学習で終わりにならないよう、生徒の抱える課題に応えるテーマ、生徒の心に響く方法を探り、また人権・平和教育の教材を発掘していきたい。授業、HR、生徒会、部活動、あらゆる場面で人権感覚の育成に努めたい。
開かれた学校づくりと地域	⑤	保護者との連携	保護者との意思疎通を図り、協力関係をすすめることができたか。	多くの保護者の方が参加をしたいと思うような魅力的な活動計画を提案していきたい。共働きの家庭やシングルマザー・ファーザーが増えており、PTA活動が負担にならないよう、実施時期や行事の内容について検討していきたい。	○	多くの保護者の方が参加をしたいと思うような魅力的な活動計画を提案していきたい。共働きの家庭やシングルマザー・ファーザーが増えており、PTA活動が負担にならないよう、実施時期や行事の内容について検討していきたい。
			PTA諸会合・行事・学年学級PTA等のPTA諸活動を充実させることができたか。	各行事の内容をよりよいものにし、家庭通知が必ず届くよう保護者のネットワークを駆使するなどして、各行事への参加者をさらに増やし、PTA活動を盛り上げていきたい。	○	一斉メールやホームページなどにより、各行事の様子や楽しさが伝わるよう配信するとともに、家庭通知が必ず届くよう保護者のネットワークを駆使するなどして、各行事への参加者をさらに増やし、PTA活動を盛り上げていきたい。
			保護者との連携を生徒指導に反映させることができたか。	「開かれた学校作り」「保護者・教職員一丸となって生徒を育てる」視点を常に持ち続け、これからは保護者に積極的に学校へ足を運んでいただき、生徒の状況を共有しながら生徒の成長を支えていきたい。	○	「開かれた学校作り」「保護者・教職員一丸となって生徒を育てる」視点は常に持ち続ける必要がある。これからは保護者に積極的に学校へ足を運んでいただき、生徒の状況を共有しながら生徒の成長を支えていきたい。
	⑤	地域との連携	「町づくり協力隊」のさらなる活性化、授業や生徒会活動・クラブ活動等での社会人講師の活用、地域の要請に応える講師の派遣などを通して、学校が地域に信頼される存在となり得たか。	今年も全校で取り組んだ「花という笑顔を～東北へ～」をはじめ、いろいろな活動において松川町や地域との協働ができ、地域ボランティア活動においても積極的に連携できた。また、多くの優れた地域指導者に来校いただき、講義をしてもらい、生徒は真剣に取り組む、成果が上がった。	○	生徒会や学校主体での活動にとどまらず、生徒自らの自発的なボランティア活動をさらに促したい。また、その活動の受け皿となる松川町の行事や公民館活動等においても、各クラブ活動も含めて積極的に連携を深めていきたい。地域の要請に応える講師の派遣などでも積極的に努めていきたい。
		学校情報の積極的な発信	中学校に対して本校の教育方針や取り組みについて積極的にアピールすることができたか。	地区の中学3年生全員に進路情報(フルーツバスケット)を配布し、積極的に情報の発信をした。ホームページでのアピールについて検討していく必要がある。	○	中学校の生徒・保護者・職員にたいして積極的に情報を発信する。
	生徒・保護者・住民の学校参加	学校評議員会の充実を図り、生徒・保護者・住民との交流が深められたか。	ホームページの更新では最新の情報を発信できていない部分もあり改善していく必要がある。メール配信サービスにおいては連絡などを適切に配信することができた。	○	ホームページに最新の情報を公開できるように努める。学年行事、写真、クラブの試合結果等、すぐに情報を集められるようなシステムを作っていく必要がある。	
			年3回の学校評議員会、生徒会活動、PTA活動等を通し、生徒・保護者・地域の方々との交流を深めた。また、保護者・生徒全員対象の「匿名性を担保した学校評価」アンケート等により、多くの保護者の方や生徒からも貴重な意見・要望をいただくことができた。	○	学校評議員・保護者の方々、生徒からの意見・要望等を職員で更に共有し、学校改善に反映できるように、各分掌担当とさらに綿密な連絡をとっていく。また、地域との交流に関しては適切に地域にPRを続けたい。	